

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 仁摩福祉会	代表者	石橋 秀利	法人・事業所の 特徴	仁摩町は自然豊かな環境に、約 15 分程度の移動半径に行政機関、医療機関、商店、文化施設などがあるコンパクトシティです。仁万、宅野、大国、馬路の 4 地区それぞれに文化的個別性があります。 法人は「個人の尊厳を尊重」、「地域福祉の増進」を基本理念に介護サービス、保育サービス、障害サービスを運営しています。 事業所は通いを中心に、泊り、訪問を柔軟に組み合わせて一体的に提供する小規模多機能型サービスを提供しており、これまでの暮らしの継続性を常に念頭に、生き甲斐活動も含めた生活全般のサポートに努めると同時に、地域住民間の互助の橋渡しに努めています。
事業所名	小規模多機能型 居宅介護事業所 ほほえみ	管理者	森山 まゆみ		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	0人	0人	0人	0人	0人	3人	(文書により参加)1人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・家族や本人からの支援の要望については、アセスメントを通して本当に必要な支援、ご本人の出来た・出来なかったを把握し、計画書に落とししていくように、職員全員でその目を持って対応する。 ・利用者の目標を忘れがちになる為、目標シートを作成し意識しながら対応する。 ・毎月のミーティングでは職員からの意見を聞く時間を設け、チーム力を向上させる。 ・施設内研修で制度について職員が学ぶ機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画書を回覧に回し職員に出来た、出来なかったの視点を持ってもらうように取り組みました。 ・目標シートは作成できませんでしたが、職員連絡ノートを使用した代替を行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所のサービス評価については、やはりわかりにくいところがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回のサービス評価に向けて、運営推進会議で反映する部分についてはカラー印刷にする等毎回説明を加えます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症については情報を把握し、サービス内容を検討し、利用者の満足度を維持・向上させる。 ・毎月のミーティングでスピーチロックについて確認し、 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況を見ながらサービス継続に努めました。出来る範囲のイベントを事業所内で行いました。 ・毎月ではなかったですが、ミーティング後にスピーチロック 	<ul style="list-style-type: none"> ・消毒など、大変だったと思います。お疲れ様でした。スピーチロックについても自分で調べたりしました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況を見ながらサービスの継続を行います。事業所内には担当職員が中心となり、外出支援やレクリエーションの様子を飾り付けします。

	日々の業務で常に意識してケアを行うようにする。	について意識付けを行いました。		
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者のアセスメントシートに職員全員が気づきや情報・地域資源などを記入していく。 ・民生委員の方や利用者の生活を支援して下さる方との連携を続ける。 	アセスメントシートへの記入は出来ませんでした。小規模計画の見直し時には担当職員が中心となり気づき等を話合うことが出来ました。	民生委員の方や支援して下さる方にはどこまでの情報を伝えるのか教えてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員の方や生活を支援して下さる方との繋がりが途切れないように連携を行います。 ・利用者がしてこられた活動が継続出来るように主催者の方との繋がりを密にします。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と道の駅「ごいせ仁摩」に出向き、地域の方と交流するとともに、季節の物を購入し、昼食作りを行う。 ・地域の催し物には感染症の状況を見ながら、参加への協力をを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2ヶ月に1度、感染症の状況を見極めながら、道の駅や地元のスーパーに利用者と一緒に買い物に出かけ、食事を購入し昼食作りやおやつ作りを行いました。買い物中には知り合いの方と出会い、交流ができました。 ・利用者それぞれの地域の文化祭へ出かけることができました。 	とても良かったのではないのでしょうか。続けていけるといいですね。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者それぞれの地域の催し物に出かけ、地元の方との交流の機会を設けます。 ・出店可能な文化祭に利用者が自信を持てるような役割を持ってもらい参加します。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の委員の方へほほえみの活動が伝わりやすいように資料や報告を工夫する。 ・委員会開催時にはほほえみの様子を案内、見学していただく。 	ほほえみの活動を知って頂く為に、会議開始前には活動の様子の写真を見て頂きました。また、会議後には時間があればホール内を見て頂き、利用者とお話をして交流して頂きました。 サービス評価に関しては分かりにくいとのご意見も頂きましたが、改善ができませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元で耳にした声や知り合いからの意見を伝えさせてもらいました。 ・会議前の時間にほほえみの活動写真をみさせてもらい良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほほえみの活動の様子を知って頂く為、運営推進会議前の時間での写真を見る時間は継続します。 ・委員の方からの情報や意見を職員に周知し、意識した取り組みを行います。
F. 事業所の防災・災害対策	火災訓練に加え、防災訓練でも地域の方に参加をお願いします。	<ul style="list-style-type: none"> ・むつみ苑と共同で防災訓練を実施することが出来ました。 ・企業の方の協力や近隣の住民、施設の方にも訓練の一部に関わって頂くことができました。 ・火災訓練では近隣の方へ避難した利用者の見守りをお願いすることが出来ました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほほえみは道中に川があるので避難も難しいですね。土砂災害の警戒区域とのことです。今後も訓練して下さい。防災訓練や火災訓練は良かったと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練では反省点を活かした計画を立て実施します。引き続き、近隣の方や地域の民生委員の方へも声掛けし、参加して頂きます。